

■高知ナスのボリュームアップをめざして

高知県産の促成ナスは「高知ナス」と呼ばれており、その生産量は施設野菜全体の38%を占め、本県の園芸農業を支える最重要品目の一つです。近年、高知ナスの生産振興を図るために、果形のボリュームアップや果色・光沢など、商品性の向上が一層強く求められています。このため、商品性の高い新しいナスの品種育成をめざし、農業改良普及センターの協力のもと、生産者とともに育成系統の実用性を検定しています。

平成14年度に、育成系統の高育交1号、同2号、同3号を安芸・室戸地区および幡多地区で試作した結果、高育交1号および同2号は慣行品種にくらべボリューム感があり、青ベタ果（ヘタの部分に緑色が混ざる果実）が少なく、光沢が優れていました。収量は高育交1号では慣行品種よりやや少なく、同2号では同程度でした。一方、高育交3号では慣行品種と同等以上の収量でしたが、青ベタ果が多く発生しました。これらのことから、現段階では高育交2号が有望と判断されました。高育交2号は栽培初期に短い果実や乱形果実がでやすいことがあります。栽培管理でどれだけ回避できるかが今後の課題です。今後、高育交2号を含め、さらに多くの育成系統を試作・検討し、高知県独自品種を育成することにより、高知ナスの商品力向上につなげていきたいと考えています。



写真 高育交2号の現地での試作状況

〔育種バイオテクノロジー科 岡田昌久〕